

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調
DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

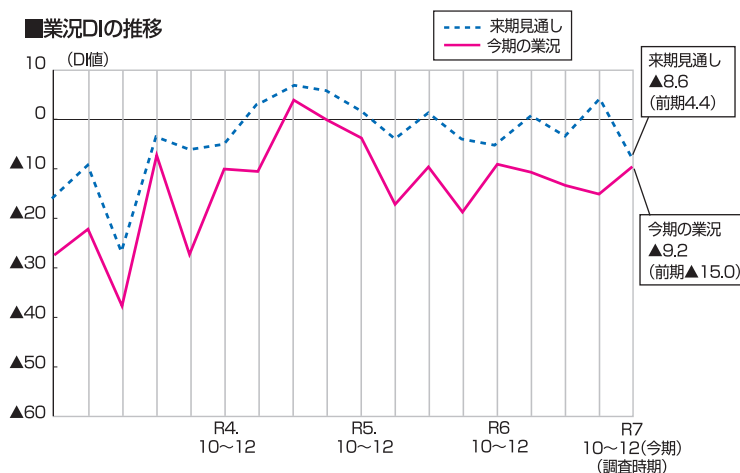
DI値	▲25P以下	▲25～ ▲10P未満	▲10～ 10P未満	10～ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和7年10～12月
回答企業数 145社

■業況DIの推移



業況は前期と変わらずほぼ横ばい。来期見通しも慎重な見方続く

【今期(令和7年10～12月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲9・2 (前期比プラス5・8ポイント) となった。産業別に見ると卸売業・小売業でDI値が上昇し、なかでも卸売業は前期比プラス14・0ポイントと大幅に改善している。

【来期(令和7年10～12月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲8・6 (前期比マイナス14・0ポイント) となった。産業別で見ると建設業とサービス業が大きく悪化し、それ以外は横ばいとなっている。

■産業別DI値表

		前期 [R7.7~9] (A)	今期 [R7.10~12] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R8.1~3]	
業況	全産業平均	▲15.0	▲9.2	5.8	▲8.6	→
	製造業	▲19.4	▲25.8	▲6.4	▲6.7	→
	建設業	▲16.1	▲14.3	1.8	▲29.6	↘
	卸売業	▲23.1	▲9.1	14.0	4.5	→
	小売業	▲20.0	▲9.5	10.5	9.5	→
	サービス業	▲2.4	▲2.6	▲0.2	▲12.8	↘
売上額	全産業平均	▲4.9	▲5.5	▲0.6	▲1.4	→
	製造業	▲22.2	▲15.2	7.0	6.3	→
	建設業	▲3.1	▲10.3	▲7.2	▲24.1	↘
	卸売業	▲3.8	▲8.7	▲4.9	27.3	↗
	小売業	19.2	9.5	▲9.7	14.3	↗
	サービス業	▲7.1	0.0	7.1	▲15.4	↘
資金繰り	全産業平均	▲12.4	▲9.9	2.5	▲8.5	→
	製造業	▲25.0	▲18.2	6.8	▲9.4	→
	建設業	▲15.6	▲18.5	▲2.9	▲28.6	↘
	卸売業	▲7.7	▲8.7	▲1.0	4.3	→
	小売業	▲16.0	▲5.0	11.0	0.0	→
	サービス業	0.0	0.0	0.0	▲5.1	→
採算	全産業平均	▲21.3	▲9.2	12.1	▲12.9	↘
	製造業	▲27.8	▲22.6	5.2	▲9.7	→
	建設業	▲21.9	▲25.0	▲3.1	▲37.0	↘
	卸売業	▲19.2	4.3	23.5	9.1	→
	小売業	▲26.9	0.0	26.9	0.0	→
	サービス業	▲12.5	0.0	12.5	▲17.9	↘

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲5・5 (前期比マイナス0・6ポイント) となった。産業別では卸売業と小売業が前期に比べ悪化しているが、来期は好転の見通しとなっている。

全産業の資金繰りDI値は、▲9・9 (前期比プラス2・5ポイント) となり、産業別では小売業が前期に比べて大幅に改善した。

全産業の採算DI値は、▲9・2 (前期比プラス12・1ポイント) を示した。建設業以外では、改善傾向が見られた。

【回答企業のコメント】
・ 昨年の価格転嫁による値上げで収益増の見込みであったが、最低賃金引上げによる人件費の増加で収支不変となってきた (製造業)

・ 代表者の高齢化により、全ての業務を後継者一人で行っているため業務が回らない。従業員を増やしたいが現在の利益では雇うことが難しい (サービス業)

・ 光熱費、ガソリン代等のコスト削減を行い、得意先に価格交渉を行っている (建設業)